

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

United Christian Ashrams of Japan

春季号

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであり、常に新しい家族の参加を期待している。

顕現し・実在したもう神

高 瀬 恒 徳

一、拒絶反応の歴史

わが国の歴史は拒絶反応と包摂性の歴史であった。仏教が渡来し、勢力を持ち始めると、これを打破する大化の改新が行われた。事後、仏教は国教となるための努力を三千年間繰返しているが依然として他国者扱いである。今から四百余年前キリスト教が伝えられ、驚くべき勢力を持つようになる。世界に類例を見ない惨酷な迫害をもって禁制した。平安時代、中国文化が盛になると菅原道真らが「和魂漢才」を唱えて遣唐使制度を廃止してしまつた。徳川時代は儒学の旺盛な時代だったが儒者狹生徂来などは、もし孔孟が攻めて来たら私は第一線に立つてこれを撃破すると言つて日本精神を高調した。神道は徳川時代、本居宣長らによって復古神道(その純粋性)が唱道され、続いてもろもろの宗派神道が生れた。神社神道は国家の宗紀として国家が管理、経営して来たが昭和二十年国家から分離され、他の宗教と同様に取扱われることになった。

二、弱点を暴露した民族性

では、わが国固有の信仰とは何か。天照御神は史学によって裸にされ、邪馬

台国の女王、巫子であった卑弥呼と呼ばれる一女性になってしまった。軍部によって粉飾された現人神であった陛下は普通の人間になってしまわれた。このためにある政治家たちは国民挙つて拜むべき礼拝の対象を求めてヤスクニを担ぎ出そうとしている。しかし、拜むべき対象ではない。ならば、大川周明らのいう皇統連綿として続いた国体か。大和魂か、日本精神か、日本人及びユダヤ人の著者イザヤ、ベンダサンのいう日本教か。徳富蘇峰なども口を極めて外来宗教を拒絶して来たものは民族固有の強烈な性格であると言っている。私は暫くこれを差し置いて明治、大正、昭和三代に亘つてこの民族固有の精神がいかに、世界に対して自己表現をしたかを検討して見たい。

旧憲法制定の起草者伊藤博文は言つた。『欧米の憲法はその背後にキリスト教がある。しかし我国においては神道仏教ともに憲法の基礎たる資格がない。幸い我が国には君民一位の美風がある。私はこれを基礎として憲法を制定する。』と。続いて教育勅語が發布され、国家としては富国強兵、個人としては立身出世のエゴイズムの体制が整つた。かくて日清、日露、第一次欧州戦争を通して国

勢は急激に膨張し世界最強国の一つとなり、軍備拡張と領土拡大によって世界のひんしゆくを買つたが、世界大戦の敗北によって根底から覆つた。終戦後の我が国は科学技術と努力によって僅か二十年間にGNP世界第二位となり、金持の国となつたのはよいが、気が付くと公害と環境破壊で、国土はゴミの山となり、死の空、死の海、死の川となつていた。国外ではエゴイズムの悪徳企業、セイルスマンの経済アニマルで世界中から弾劾されるに至つた。まさに第二の敗戦である。そして国民性の弱点を遺憾なく暴露してしまつた。

三、真の拜むべきもの

ドイツのプロテスタント神学者オットー博士はその著「聖なるもの」のうちで神の本質の一つは Otherness 他者であると言っている。我らと全く異なるもの、聖なる他者、すなわち拜むべきもの、と言っている。

日本の教会はこの絶対他者である、近づき難き、全知全能なる神の紹介を怠つておはしないか。国民は拜むべきものを求めている。観念的、内在的キリストではなくて、絶対他者である栄光の神を求めている。アシュラムはこうして同胞の要望に答えなければならぬ。

スタンレー・ジョーンズは『言が肉体となり』たもうた神を紹介し、言が言のままであつてはならない。その神の前に悔改を必要とする神、聖書をもって語り続けている神。その神に聴きこれに従ひ直に実践を命ずる神を教える。ここにアシュラムの使命がある。

発行者 東京町田 編者 海老沢 高 定価 1

聖霊と異言の賜物(一)

スタンレー・ジョーンズ

最も大きな必要の一つは、聖霊の再発見である。聖霊ぬきの信仰は、完全になろうとする決心にすぎないが、聖霊によって初めて何事も可能となる。聖霊のないキリスト教は、善人となり義務を遂行しようと意志にむち打って心身を勞しもがきつつ、緊張した努力を続けることになる。

聖霊による時、万事に骨折らずに十分確実な触れ合いがある。それによってキリスト教の万事は可能となるだけではなく実現する。聖霊は贖罪の鋭い展開である。

今日熱心なキリスト者によくある形式主義、粗野な知性主義、現代キリスト教の中途半端性を打ち破り、使徒行伝のキリスト教の力と直接性とを発見しようとする飢え渇きがあることは、希望である。私たちはこの渴望と、改変された生活におけるその結果を喜ぶものである。

然して聖霊の再発見が多の場合に、異言の賜物と混同されていることは、困ったことである。『異言の賜物を持つときに聖霊があり、それがなければ聖霊もない。』表現はちがうが、よくこんなことが言われる。

聖霊の所有と異言の賜物の所有とを結び合せることは、恐らくこの混乱した手

探りの時代を叩きつけた最大の精神的災害であると思う。それは現代の思慮ある人々にとり、聖霊を判りにくいものとする以上、聖霊の賜物を無駄にする何ものでもない。異言の賜物はわけの判らぬ発言で、他の誰かによって通訳されない限り話す者にも聞く者にもわけが判らないからである。ここにペンテコステに用いられた言葉と異言とのちがいがあ

あそこでは『全ての人が神のすばらしいみわざを自分の国語で聞いたのである』その言葉は聞いたすべての人に直ちに理解された。それは自分の国語であり通訳を必要としなかった。また彼らが自国語で聞いたのは、迷文ではなく、筋の通った論説で、しかも非常に判り易く実行できるものであったので、人々はそれを受け入れ、回心させられた。このような異言は現代においては、はっきりと再現されなかった。

人々はインド人に伝道しようとして、インド語も学ばず、通訳も用いないでやってきた。そしてその希望は消滅してしまつた。もしインドに福音を伝えたいなら、その言葉を学ぶか、通訳者を用いることである。

ではペンテコステ型の言葉の中心点は何であろうか。人々が当時の全世界から、

ヨーロッパ、アジア、アフリカからこの祭日に集まつていたことではないか。新しい贖罪の運動が展開されていた。もしそれを受入れたら、あなたはヘブル語とユダヤ文化を持つユダヤ人になるというほどのユダヤ的現象であつたのか。

否、そのユダヤ的な型は破られた。『だれも彼もが神のすばらしいみわざを生れ故郷の国語で聞いたのである』(使徒行伝二章六―八)。神はこの新生命を表現するために全ての国語と文化とを用いられた。ここで福音はユダヤ民族の偏狭さから解放され、普遍化された、型は破られた。これは特別な場合に特別な目的(即ち普遍化)のために行われた特別の奇跡である。この事はユダヤ的排他性の中心エルサレムで起つた。それはまたカイザリヤのローマ人コルネリウスの家で起つた。また小アジアのギリシヤの異邦文化の中心地エペソにおいて起つた。つまりユダヤ、ローマ、ギリシヤの文化の中心地において、外語の賜物は聖霊の賜物と結ばれたのである。(使徒行伝十章四六、十九章六)。これは偏狭な地方的觀念を破り福音を普遍化するための作戦上から与えられた賜物であつた。正に『ユダヤ人の王、ナザレのイエス』と十字架の上にローマとギリシヤとヘブルの言語で記されたのは、全ての国民の国語に彼が王であることを知らせるためであつたように、福音はこれらの三文化の中心において直接に彼らの国語で語りかけたのである。カイザリヤでは彼らは『神をさんびする異言で』語つたと言う。それは知

らない言語ではなかつた。彼らが『神をさんびしている』ことが人々に判つたからである。またエペソでは彼らは『異言を語り、預言をして』いた。そして預言とは事件を予告することではなく、善い音信(福音)を告げ知らせることであつたことを人々が理解したのである。

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

海老沢 宣道

アシュラムの創始者スタンレー兄弟が書残した「アシュラムとは何か」を読めば、全て十分であるが、その中から五つの要点を挙げて解説し参考に供したい。

まずアシュラムの目的は何かと言えは私たちが真にキリスト信者に造り変えることにある。キリストを信じているに違いないが、単なる信者に止まり、真の弟子になつていない反省が出发点である。

主は私たちに『神の国は近づいた。悔改めて福音を信ぜよ』と言われる。信仰の前に悔改めが求められているのだが、多くの場合に悔改めが不徹底のまま信者になつてはいないか。結果はその信仰も頼りないものに終る危険がある。

悔改めとは古い自我を全く捨て去ってイエスを主と仰ぎ服従し、その支配下に新生することである。主はニコデモに向つて『新生なくして神の国なし』と言われた。故にアシュラムでは開会に当り『開心の時』を持って各自の真の必要をまず告白することになつてゐる。

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し
(二) 御言への静聴と立証

祈り・訪伝・アシュラム

白川 鄭 二

婦人会々長のY姉が婦人会の事務の整理をしながら、ニコニコして「先生、婦人会のお仕事よりも、もっと伝道させて下さい。Mさんが、訪問の度にお祈りをして下さるようになりましたのよ」と言われた、Y姉が訪問しているM姉は一児の母、近く次の子の出産を予定している。彼女は十年も前に他の教会に出席していたが、その後幾度となく中断し、ここ一年は音沙汰なしになっていた。仲々信じ切れなくていたのが、約十回の愛の訪問を受けて、心が開いて来たのである。

訪問伝道担当者は、それが実に楽しいと言う。S姉が担当されたH姉は五十六才であった。H姉は性格が強く色々の悩みを抱いていた。そのころ世の終りを強調する教派の伝道に接して、H姉はノイローゼ気味に成り、遂に或日三浦綾子氏の著書をかかえて、教会にとびこんできた。「世異が滅亡するって本当でしょうか。その時、家族はどうなるのでしょうか。」「三浦先生の本に書いてある様な話をききたいのです」。こうした事から此方への訪問伝道が始まった。そうする中に彼女の心に変化が始まった。「或日ふと気がつく、十七年の間、自分の心

燃えていた恨みの炎が消えていました」。H姉の実母の不幸は死の原因が兄嫁の母への冷たい仕うちにあったと、感じていたH姉の心は、それを思出す度に恨みの炎で燃えていたと言っているのである。「私の様な心の持主がこうなるなんて、私は本当に復活したんですね」。S姉に導かれてH姉は数ヶ月後の復活祭に神の子と成った。

半年程へて、H姉が「先生、お願いがあります。私の娘は二児の母ですが、胃潰瘍で手術が必要だと診断されました。あの子は私に似ています。助けが欲しいです」。H姉の意を察して、又S姉に訪問伝道を依頼した。彼女は自衛隊の五階建のアパートに住み、人間関係で悩んでいた。数回の訪問で、彼女はキリストを受入れ、自分から進んで、礼拝に出席し始めた。暗かった顔付が明るく成って行き、間もなく受洗、健康も回復した。

S姉担当の——今一人の母親がある。このT姉は不在がちで半年位かかって、漸く家に通されるように成った。聖書を聞いて共に、ザアカイがキリストに呼ばれた物語を学んだところ、T姉は「私は今まで、このイエス様を探して、探していたのですわ」と言った。彼女は稚い時に両親を喪い、空虚な心で、本当の愛を求め続けてきていたのである。彼女は始めて、祈りをすることを求められた時、「肩から重荷が下りました」と自分の言葉で涙と共に祈った。

訪問者は神の言が、真に生きて働くこと、失われた魂がキリストに向うのは実

に、聖霊の導きによることを経験して驚喜せざるを得ない。

私たちの訪伝では、求道者が教会に来る前にキリストを受け入れるように努めている。これは「心と心の伝道」(いのちのことば社刊行)によって学んだところで、今まで、すばらしい事実を経験している。S姉とY姉は教会の「祈禱の細胞」で、数年間、牧師と共に「とりなしの祈り」の訓練を受けて来た人々である。この訓練が無かったならば、彼女たちの訪伝は、前記のように進展したかどうかかわらない。それでH姉やM姉たちを祈の細胞に加えて、次の訪伝者をふやす計画である。

S姉、Y姉は又当番地のアシュラムの委員として集会の開催のご用に与かり、常により証しをして下さっている。祈りの細胞、訪問伝道、そしてアシュラムは何れも故S・ジョーンズ先生が日本に紹介された霊的運動である。

そしてそのすべての基礎は、「祈り」にあると言わざるを得ない。私たちは何年かの間、家庭婦人達と火曜十時半の祈りの細胞をもち続けてきたが、それが何時の間にか個人伝道に発展して行ったのを見て驚いている。昨年から礼拝に主婦である新しい求道者たちが、たえず出席するように成ってきている。神がこの様に祈りの群をお用い下さることを感謝している。

(道南アシュラム委員長)

- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

また主は「神を信じ、私を信ぜよ」と言われると共に「私に従え」と言われる。信じるだけでなく従う者(弟子)となることを求めておられる。そして「誰でも私についてきたいなら、自分を捨て、十字架を負って従え。」と言われる。この主の招きに対して、私事や世俗の用事を理由にして、十全に応答しない信者が多いために、各自の信仰にも今日の教会にも問題が起るのである。

つまりアシュラムは使徒行伝の初めに記録されている原始教会の生活に帰ることと、或はそれを現代に再体験することによって、キリストに全く自己を明渡し、た弟子を造り、真の教会を建てる運動であると言えよう。

『イエスは主である』という告白を文字通りに生きる時、聖霊は豊かに降り、「言は肉体となつて、われらのうちに宿られる」のである。

そこではこの世の一切の人種、階級、年令、男女、教派、肩書、偏見の垣根が不要となるのは当然で「主にある兄弟姉妹」という語が、単なる挨拶でなく実質を伴ってくる。聖霊の交わり(コイノニア)が一同の体験となり、主にある幸福と歓喜に満たされるのである。

敵に城を明渡すというのは、破壊したり焼き払ったりせずに、そのまま渡すことである。私たちがこのままの自己一切を主イエスに「無条件降服」して明け渡し、この城主は「もはや我にあらざり、キリストわがうちにありて支配し給う」と言う信仰に至る時、「イエスは主である」との告白が真実となるのではないか。

寸言

誇りを捨てよう

○肩書を羅列し、多忙を誇りたい時、『汝ら静まりて我の神たるを知れ』

○祈りの回数を誇りたい時、祈りは神との絶えざる会話なるを覚えよ。

○自分の熱信を誇りたい時、他人の薄信を軽蔑する罪の重さを知れ。

○『わたしには主の十字架以外に誇とするものは断じてない』(ガラ六・一四)

★東北アシュラム(第三回)

去十一月二二―二三日秋田県横手保養センターで『新しく生れなければ』を標語に四〇名が各県から参加、榎本保郎牧師の来援を得て、開会(桂島)開心(村上)聖書(榎本)立証(大住)ファミリ(ラマーズ)分ち合い(吉池)聖誓(荒井)充滿(榎本)と二日にわたって充実したプログラムを進め、期待にまさる恵溢るコイノニヤを経験させて頂き、感謝に満され乍ら再会を約して別れた。第四回は七四年十月中に山形県で開催する

ことを申合せ、祈を尽して準備中である。

(委員長・村上東報告)

★城北アシュラム(第三回)

去一月十五日(火)午前九時半から夜八時まで、一日アシュラムを江古田教会(牧師海老沢宣道)で開いた。標語『わたしのもとに來なさい』を中心に四五名が十一教会(教団六、池上、聖公会、ナザレン、バプテスト、カトリック各一)から参加、開会(海老沢)開心(山根)静聴(中村)聖誓(高瀬)分ち合い(ファミリ)充滿(海老沢)と終日主のみ在る経験を与えられ、このような霊会は年々何度でも開いて欲しいとの要望が出た。

★第四回全国理事会報告

去二月一―二日東京目黒みやこ荘に各地区委員長(六名)在京(六名)出席、開会(高瀬)地区報告、祈会(白川)協議に入り、会計報告、機関紙名称変更、連盟歌の制定、規約改正、七六年世界アシュラム日本開催、新加盟地区、役員改選、七四年世界アシュラム、インド開催に代表派遣、今年度は海外の助言者を招かず各地区とも相互応援で静聴を中心に行うこと。今秋十月下旬インド大会後、立寄る各国代表との懇親会を東西二ヶ所で開催こと等決定した。

書記・大石嗣郎 横山義孝

財務・鈴木留蔵 萱沼孝文

理事・白川鄭二(道南)村上東(東北)

横山義孝(関東)内村サムエル(中部)中路嶋雄 後宮俊夫(関西)谷本清(中国)宇都宮充(四国)山本繁夫(九州)

創始者ジョーンズ博士記念

三大事業への献金募集中

日本アシュラム兄弟の協力を

故スタンレー兄弟にアシュラムを教えられた世界の友は、博士が生前希望された仕事の中から左記三つの計画を記念の事業として協力実行することに決定、予算六〇万ドルを計上した。

▼第一、世界アシュラム・センターをガラリア湖畔に建設。

▼第二、アシュラム未開国への活動費。

▼第三、発祥地サト・タルのセンター強化とクララ・スエイン病院の増築。

日本連盟はこれに参加して博士への感謝を表わしたく、目標を二万ドルとした。

◎送金方法 成べく振替東京五〇二五九(名義、江古田教会)利用、通信欄に「ジョーンズ博士記念事業献金」と明記して御払込み下さい。

記念事業献金報告(三)

(一九七三年十二月―二月末)

- ▼五万円 W・Mギャロット(九州)
▼三万五千元 成毛 謙次郎(東京池の上)
▼二万円 中路 嶋雄(大阪扇町)
▼一万円 三好 豊重(松山番町)
宇都宮 充(四国松山)
村上 東(東北郡山) ②

- 石井小三郎(救世軍渋谷)
池本金三郎(兄弟団三蔵)
海老沢宣道(江古田) ②
▼五千元 菊池 いう(関東深谷)
五味 明子(西川口) ④
▼三千元 中山 直良(松山番町)
松山済美会(四国ア)

- ▼一千元 山本忠一、加藤美加子、河野修、中村重康(以上松山) 三宅美智子 須金富子(以上西川口) 中島信義(東京聖十字) 田鎖知子(深沢) 寺井俊健(聖テモテ)
▼二百円 大西真実(聖ルカ)
◆第三回 計二〇〇・金三二〇・二〇〇円 累計 金一、一四四、四〇〇円

○必読を勧める書

- スタンレー・ジョーンズ著
『アシュラムとは何か』(30円)
『一日アシュラムの守り方』(同)
『地区アシュラムの手引』(50円)
参加者が繰返し読んでおくべきもの
ゴードン・ハンター著
『壁のくずれ落ちる時』(英文)
昨秋全国を巡回すばらしい助言をして下さった師の近著、
定価八〇〇円 下別

○アパ・ルーム

- 隔月刊世界四十八ヶ国語に訳出され、毎日数百万の同信の友が同じ聖言に命を捧がわれている最も霊的で家庭的な日課、アシュラムの友必読の書。
日本語版 一冊七〇〇円 二二五円
英文版 一冊六〇〇円 二二五円
▼アシュラム・ピン 一個一五〇円
同志の胸に『イエスは主なり』のマークをつけよう。

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れ

所野区 19-12 気付 道人 恒徳 30円